



### 追悼 佐藤徳通氏

今月の表紙  
photo & layout : 本誌・里

2 みんな、実践釣り教室でへら鮎釣りを覚えた。みんな、徳さんが大好きだった。

14 特集「天才」、降臨！「話題の釣り方」が、ついに白の日に！！

24 横浜&大阪の熱気を伝えます！

47 新連載 例会の「復習」から明確に見えてくる、課題と戦略！

## 国際フィッシンググシヨ

## 戸張誠【激闘の余韻】

追悼 佐藤徳通氏

糸井日出男 最強チョーチンウドンセット

釣り場割引クーポン券 p.163~

野田幸手園 椎の木湖 清遊湖 谷和原大沼 上尾園  
F.A吉羽園 谷養魚場 将監 柳生F.P 筑波白水湖  
泉堰 逆井HC 友部湯崎湖 三和新池 川越FC  
鳥羽井沼 大上へら池 霧の沼 小川つり堀園 府中HC  
清川つくしFC 千代田湖・舟宿 千和 相模湖・釣舟 五宝亭  
相模湖・釣舟 天狗岩 吉森HC 甲南へらの池 当麻池  
水藻FC 朝日池 釣り堀八十八 谷中園 浜野HC

※天野正由【緑明ゆる釣り場を巡る】は誌面の都合によりお休みさせていただきます。

- 193 棚網久 全開MAX  
《第4回》真冬の丹生湖で時間40枚！ これぞ超全開MAX
- 160 《新連載》釣り人のお仕事  
《第2回》ゲスト：石井省三さん
- 158 五月へら鮎会 創立40周年記念パーティー！
- 154 《新連載》小林恭之ノルマでGO!!  
《第4回》極寒の金山湖でノルマは達成か?!
- 150 田辺新男 MYへら道  
《へら道その十二》新潟弾丸ツアー！雪を全身に浴びながら釣りたい！
- 145 《新連載》杉山達也 UTLA SPLASH  
《第3回》清遊湖へチョーチンウドンセット！
- 138 《新連載》中澤岳 攻めの美学  
《Case3》東谷田川》野に出るその美学、ますます「攻め」。
- 134 《新連載》竹竿の似合う釣り場  
《第3回》富里乃堰
- 129 こだわりの店 黒へら お年玉プレゼント当選者発表！
- 64 稲荷川（茨城県） 本誌・伊藤洋一  
63 春の北陸、釣り場12カ所、有明干拓池（福岡県） 山本一朗、河口正伸  
62 佐屋川西之森寄せ場（愛知県） 後藤誠  
61 当麻池（奈良県） 前田誠志
- 58 早川浩雄「鉄壁・早川スタイル」  
《第9回》へら学の森泉園、段差の底釣り
- 52 岡田清 Deep Side Angle  
《Vol.49》【激流の長竿ウドンセット】谷和原大沼
- 40 生井澤聡 挑戦者魂  
《第4回》【千葉県・葛西川】
- 34 《新連載》小池忠教 激釣テクニカルアドバイス  
《第3回》チョーチンセットを極める 清遊湖 ゲスト：福富大祐さん
- 28 石井旭舟 へらぶな浪漫街道  
《第六十三回》相模川 弁天の砂利穴

- 200 北川穂積 西の交友録  
《第二十七回》ゲスト：辰野氏 釣り場：新松池（兵庫県）
- 205 釣り味  
《第14回》清焼き天ぷら【温純屋】特上うな重
- 206 釣果予想クイズ
- 208 フィッシングレディ  
《今月のレディ》鈴木亜矢子さん 野田幸手園
- 66 特別企画 ウキ作り試行錯誤  
《最終章》楽しいウキ作り塗り&テスト
- 74 へら鮎釣り 超基本講座  
《第38回》強風時の釣り編
- 86 ガチンコ道場  
《第29回》メンパー底釣り修行!! その2
- 97 江成公隆のトーナメント、復活への道。  
《Vol.70》底釣りレミ2008 PARTII「徳さん」に愛を込めて
- 102 水辺のプラネタリウム 吉本亜士  
《今月の星雲》「鳴神上人」
- 106 最強へら戦士養成所「鮎の穴」 漢タカハシ  
《第62回》漢タカハシ真冬のエッセイ。春はまだ遠かった！
- 110 へら鮎Cafe 西田美明  
《Vol.4》活性エネルギーは何処から?!
- 112 永久釣りバカ宣言。 斉藤心也  
《第4回》「サンイバカ宣言?」

- 114 水と戯れ、風と遊ぶ ホワイト  
《第16回》もしかして、KY（空気読めない?）
- 116 野田幸手園新聞
- 118 平成19年度 相模湖大型表彰式
- 161 ワクワク管理釣り場情報
- 170 小売店情報
- 175 ★へら鮎BOX  
里ちゃんのイケイケ編集長雑記  
情報発信基地  
ポイス
- 176 コラム「日研だより」 日研広報部長・遠藤亮己
- 187 コラム「上村流!」 上村恭生
- 189 コラム「紀州 想いの竹」のものがたり 中妻伸行
- 191 広告索引
- 192 編集後記

### STAFF

- 発行人 根本百合子
- 編集長 田中里史
- 編集部 大場勝良 諸富一秋 伊藤小百合 伊藤洋一
- へら鮎NET 根本大作 八十田昌広
- 企画 〈オフィス・えび〉 藤原 肇

この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

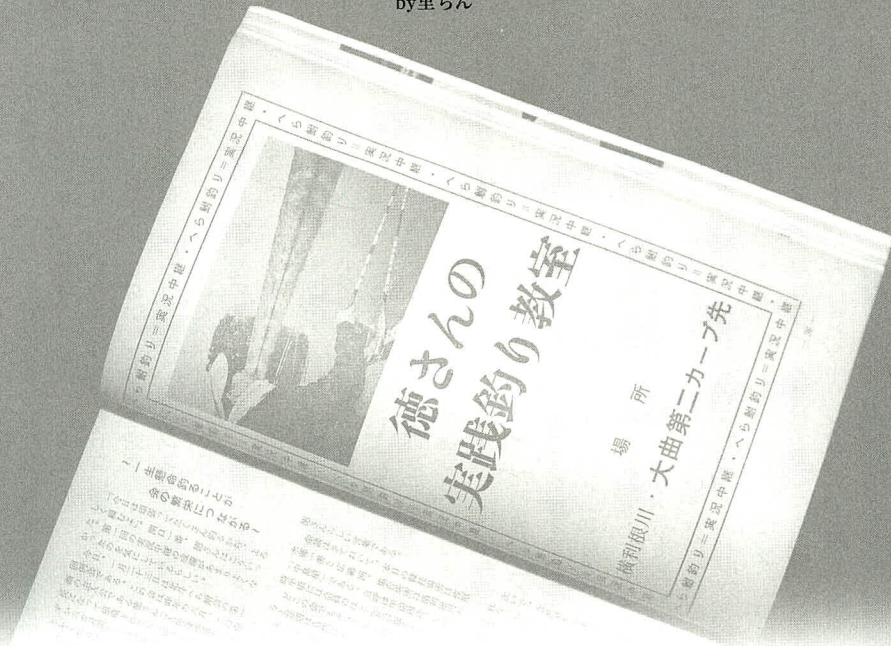
# 江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
業界初 Web運動企画！ (URL) <http://hecar.yokohamatsurumi.net>



徳さんこと佐藤徳通氏が永眠された。  
今月、江成の精神状態は「底釣りゼミ」どころではなかったようだ。  
でも、一生懸命書いてきた。  
そして、徳さんへの追悼の言葉も――。

by里ちゃん



底釣りを覚えて最初に迷うのは、間違いない。「ハリが底に着いたら重さが消えて、ウキの目盛が上がって来る」という理屈と、実際のギャップだ。両ハリとも底につける完全底釣りにおいては、初心者は初回のゼミに書いたようにタナ取りでナナメに誤測しやすいため、間違いない下バリ分くらい重さは消えるから、エサ打ち開始前の確認の投で、宙でのエサ落ちより上がって来るのは美感出来るだろう。仮に振り切ってテンションをかけてしまっても、よほど底の状態が悪いか流れがきついケースを除いて、放っておけばアンカー状態から解放され、いずれ出て来るのは確認出来ると思っ。とりあえず教科書通りだ。落とし込みが上達すればするほど、上バリトントンでの確認では上がる幅は少なくなり、水深に対して無駄なラインがない、すなわち垂直に近付いた精度の高いタナ取りが出来たことになるが、これが迷いの第一歩となった人は多いと思っ。底との摩擦によるアンカーは実際どれくらい上がり殺すんだろうとか、底に着いたハリの重さは、どの程度消えてるんだろう、なんてことを考え出して、水中を図に書いてみたことのある人は多いはずだ。机上では完璧に垂直なタナ取りは可能だし、上バリが底スレスレのイメージもOK。で、しばらく眺めていると気付くことがある。「ハリの重さが消えるって軽く言うけど、ウキが上になると上バリは底切っちゃうじゃん。完全底釣り規定なら違反だよー」この辺は教科書にも書いてある。「その分」

着くまで  
「」再考

だけズラしてはじめてトントンだ、と。「下バリの目方の目盛幅」が、上バリを底から切らせる「長さ」だから、「その分」その長さである。しかし、僕が以前から問題に思っている「たとある曖昧さ」を考えると、「目方が消えて上がってくる目盛幅は、簡単に求められるものなのか」という質問を読者の皆さんに投げかけたくなってくる。「簡単じゃないか」と言う人と「特定不可能」と言う人と、おそらく7・3くらいで分けられると思うが、とりあえず次へ進もう。

一般的なバランス底に用いられるハリス段差では、よほど大きくズラシを入れて、かつ落とし込まない限り、下ハリスは寝ない。無意識で図の中の下ハリスを寝かせて書いてしまった釣り人の実際の水中も、寝ていない(笑)。テンションがかかっているのだ。となると、下バリの目方(厳密に言えばアンカー効果によるシモリ分)は100%は消えていない。「その分」ウキ下を深く調整した時点で下ハリスの角度はいちだとナナメになり、ハリスのたわみも大きくなる。すると、テンションは緩む。と、下バリの目方はさらに消えていく。でも、「その分」またウキが上がることになる。上がったウキにより、また角度がキツくなるからテンションもかき出して…で、また上バリが底を切る…? 頭の中がぐるぐるになった経験がある人はいると思う。ただ、さっき僕が書いた「7・3」の7、「目方が消えて上がってくる目盛幅は、簡単に求められる」と答えた人達は、「なんでそんなに難しく考えるのか分からない」と思うだろう。テンションの状態によって消される下バリの重さは多少の変化があるのは納得していただけたとしても、「マックスでも、しよせん目盛定らずの話だから、そんなの関係ねえ」のだ。…「マックス目盛?」…そう、「目方が消えて上がってくる目盛幅は、簡単に

求められる」と答えた人達は、「宙で下バリを外して打ってみれば、『下バリの目方』はヒタリ分かる」と言っているのだ。ここではじめて「7・3」の3の人達は、7の人達とは決定的に何が違うかに気付くことが出来る。「おいおい、上バリの目方は考えなくていいのかよ?」

これが3の人達のリアクションの筈だ。日頃から上バリの目方も考慮しているからこそ、「ぐるぐる」に陥ってしまう。よく言われるトップとハリのバランス「1ハリー目」からいけば、3の人達にとっては「2目盛」もある幅なのだ。あえて書かなかったが、「上」上がった上バリの目方はどこへ行くんだよ」というのが、さっきの「ぐるぐる」に続くのだ。

まわりくどい書き方にワケがわからない人もいるかもしれない。書いてる本人も頭が痛くなってきたが、スバリ書く。トントンの「底スレスレ」なのが、ギリついているのか、つまり「上バリの目方がかかっているのか、かかっているのか」という部分が非常に曖昧なのだ。

これがさっき書いた「たとある曖昧さ」である。このおかげで、考え方が根底から違って来るという大問題が起きるのだ。

ここで反論が出ると思う。「キチンと定義されているぞ」と。僕が最初に読んだ教科書では、たぶん「トントンは底スレスレ」が正解(定義)だったと思う。しかし、トントンは様々なバリエーションが存在する。空バリトントン、エサを付けてトントン、関東流のトントン…。ワケがわからなくなる。こういうのは曖昧だということにならないだろうか。「スレスレ」や「エサを付けてトントン」なら、「空バリでは上は底につかない」と解釈するのが自然だ。上バリの目方は常に100%かかったままなので、下バリの重さだけを切

り分けて考えやすい。

では、なぜわざわざ面倒臭い考え方をする人達が出て来るのかと言えば、底スレスレは、実際の水中で成立している時もあるだろうが、「そうそう狙って出来るタナ設定ではないから」である。机上でしか存在しないと考えた方が無難なタナだ。

最近あまり聞かない完全底釣り規定の池では、スレスレは違反なため、上バリの目方も考えなければならぬ苦のケースしか存在しない。ズラシを徹底的に嫌う一部のトントン派を除き、バランスの底ではズラシを入れていくのが基本とされるから、完全底釣り規定の池でなくても、実際は両バリとも底につけている釣り人が圧倒的に多い。けれど、エサ落ち目盛より下の目盛が出るメカを、軽視している釣り人が多いのもまた事実なのだ。「マックスでも、しよせん目盛定らずの話」だし、フロートをつけて測る人、付けないで測る人での基準も違うし、結局は「ウキの上がり方」で雰囲気を見て「いつもの感じ」にウキ下を調整していきたくらいだし、「教科書通りに、宙のエサ落ち目盛前後まで戻ってからのアタリを取ってれば間違いなんじゃない?」ってな感じで、「初心者に説明してあげる機会さえなければ」、理屈なんかどうでもいいのだ。

そもそもトントンという言葉の語感、足がつくつかつかないかというボールの底を連想させる。「つかつかないか」は、「ついたり離れたら」と解釈することも出来、「どっちなんだよハッキリしろ」という感じである。

## それぞれの役割と干涉。

垂直なハリスで待つことが、へらに対してどれだけマイナスなのかは前々項で書いたが、2本バリで打つ完全底釣りにおいての下ハリ

スには当然ながら、段差による差こそあれ、無条件で角度が付く。だから、トントンのアタリが絶対に出ないと心配しすぎることは、実はない。もちろんその下ハリスの角度では「足りない」ケースであれば、ズラシを入れていかなければアタリは増えて来ないだろう。ならばと、ハリス段差を大きく取るのも一手だが、ズラシには角度の調整の他に、もっともウキが下に入りやすい位置(感度の良いバランス状態)まで早く戻させる狙いもあるのだ、たわみが少なくテンションがダイレクトな上ハリスのままでは、問題が全くないとは言い切れない。

返してからの底釣りで、同じエサ付けでも下バリばかりに食って来る時、上ハリスの角度は嫌われているということになる。逆に上ばかり食って来る時は、下ハリスには角度が付き過ぎ弛んでしまい、アタリを伝えるテンションが弱いと考えられるし、下バリがメインで食われる時よりスレスレも多いかもしれない。本来、共エサならどっちが食われても構わない。北城理論では、「この角度ではイマイチアタつてもらえない」という判断のもとに、積極的にテンションをかけたつもどんどんズラしていくわけだから、その過程は下バリに食って来るへらがほとんど。行き過ぎてはじめて上ばかり食って来るズラシに遭遇するはずだ。そうなったら一段階戻ればいいが、下ハリスを詰めて、段差をおもいきりタイトにすることで、「どっちのアタリが見分けがつかないくらいに、交互に上下のハリを食って上がって来、かつリヤン」も連発し「という経験が出来るかもしれない。逆に上ハリスを下ハリスとする実験もやってみる価値はある。が、僕の経験からいうと、これはNGだった。最初からやり直せば結果は出たと思うが、たわみからテンションから全て変わってしまうのだ。それまで得られたデータの基準となる

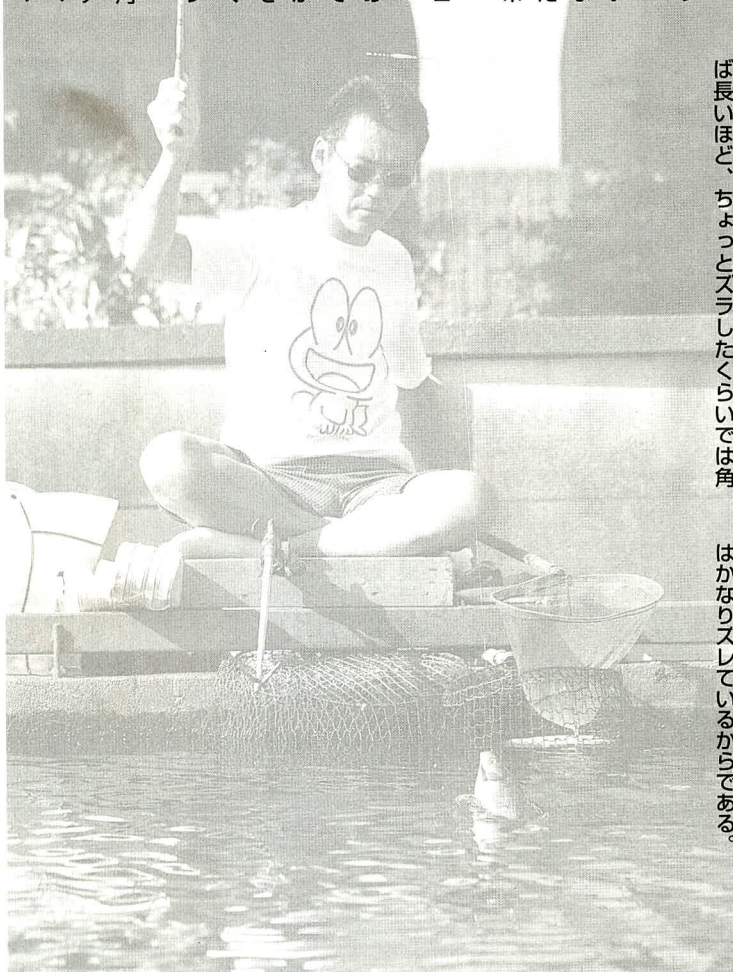
上ハリスをいじるのは、やはりオススメ出来ない(笑)。上干のハリス長と段差は、釣り人の思っている以上に繊細なバランス(互いの干渉含む)で構成されているのだ。アタックもらえる角度を探り終えたら、あとは自分のリズムに持ち込むだけだが、下ハリスの段差幅と若干のズラシのみで、上がり方とアタリの伝達性(テンションの強弱ということ)を調整するのがベターだと思っ。

## 下ハリス、トントン

ようやく下ハリストントンに話を戻す。実釣時において、上バリ(エサ)と底面との摩擦によるアンカー効果が全く期待出来ないこのタナ設定では、下バリの小さなクワセのみの摩擦しか存在しないことになる。摩擦には表面積がモノをいう。小さいクワセではテンションのキープが難しい。つまり、両バリとも底についている状態より戻りがいいと言えるのだ。へたにズラシを入れてしまえば、たるんでしまい、アタリが出ない。だからやはり段底は「トントン」なのだ。…ホント?

ズラシの出発点は、ハリスの角度コントロールであった筈だ。底釣りにおいてテンションという言葉が一人歩きしてしまった感のあるいま、角度という言葉が頭から抜け落ちてしまっている人が多い気がする。へらが底からエサを拾う時に警戒しない最低限の角度を付けた際、たるんでアタリが出ないのを防ぐためのテンションではなかったか。「まずテンションありき」ではないのだ。

前項で書いた「下ハリスに自動的に付く角度」が、下バリで測るという段底独特のタナ取り方法では発生しない。「微調整(いいとこ、プラス数センチのズラシ)」はしたとしても、



共エサの完全底釣りにおける、トントンの下ハリスよりも、さらに突っ張った垂直に近いハリスについたエサを食べるのはなぜなのか?

謎を解くカギは、実はセットの解釈派の根拠と同じ「ハリスが長くないとアタらない傾向」にあるのだ。

初回の底釣りゼミで登場させた言葉だが、「く」の字」というのを覚えている読者はどれくらいいるだろうか。

オモリを中心(境)とした仕掛けの折れを指した言葉だが、オモリを外さない限り、タナ取りの際にもこの折れは生じている。タナ取りゴムとオモリとのバランスで、その折れ(ぶれ)の角度は決定するが、問題になるのはその時のハリスの長さだ。

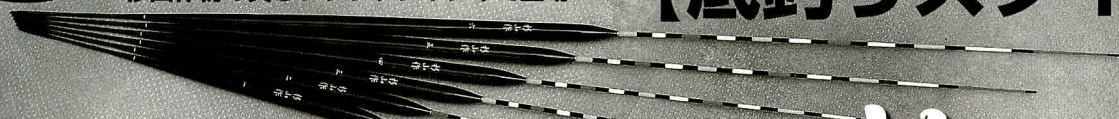
底釣りゼミ2005では、ハリスが長ければ長いほど、ちよっとズラしたくらいでは角

度は変わらないと図示した。今回は逆に角度が決まっている。つまり、「角度が付くほどにズれている」のだ。実際のクワセはどんなタナ取りゴムよりも軽いため、タナ取りゴムの時よりも、ハリスはナナメに突っ張らない。加えて、長いハリスが生み出すゆるやかなテンションを保持したままの「カーブ」。イメージとしては、「オモリから底面に向かって垂直に近いハリスが伸び、底付近でカーブして、クワセのついたハリ周辺は、底べったりなもの、かなり寝ている」という、オーソドックスなハリスの長さの完全底釣りでは「錯覚」とされるような理想形になっている可能性が高い。これについて、完璧な落とし込みを意識したり、置き直したりする釣り人なら、ズラしたらスレのオンパレードになるのは十分に理解出来る。トントンのつもりが、実際

**新作!!**

慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。  
杉山作初の美しいブラックボディで登場!

**【底釣りスタイル】**



繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。

- ボディは羽根2枚合わせ5.5mm径。精悍な極薄ブラック塗装仕上げを採用
- ダイシン製ホワイトトップ(内径1mmパイプ)採用。軽量かつ視認性大幅UP!
- サイズ:一番(T110cm B9cm カーボン足4.3cm)~六番(T17.5cm B16.5cm カーボン足4.7cm)
- ワンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現!
- 定価1本7,350円(税込)

取り扱い店〈五十音順〉

- 埼玉・越谷 かわせみ (048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (03-3499-5025)  
埼玉・入間 へらの三水 (042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその (0285-72-2215) 神奈川・川崎 謝仙人 (044-287-7470)  
東京・吉祥寺 丸勝 (0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (0428-22-2467)

杉山作

## なごり雪。

佐藤徳通氏が亡くなった。2月2日のことだ。僕が知ったのは、翌3日の里ちゃんからのメールだった。

関東地方は大雪という予報に、3日のナリズ2月例会は流会にしてあった。新生ナリズとなつていきなりの流会は悩んだが、遠方から集まる会員に配慮すれば、当然の選択だった。例会翌日は皆、仕事である。帰れなかつたらアウトだ。

2日夕方から降っていた雪は、いよいよずのババと、横浜ではめつたに出来ない雪だるまを、子供達にプレゼントした。寒さに震えながら僕も雪だるま作りを手伝ったが、その最中、

「ああ、ゴールデンだったら流会は有り得なかつたな……」  
と、懐かしくなった。

「雪には雪の釣りがある」と、故・佐藤会長は言っていた。僕のような若造が在籍しているのが場違いだと感じるほどに時間や経済的に恵まれた会員が多く、行き帰りの道路状況を心配をする必要があまりなかつたというのもあるが、それ以上に「キチ〇イ」が多かつたという理由の方が大きかつたろうと思う。

里ちゃんからメールが来たのは、ちょうどそんなことを考えている時だった。

僕が会長を初めて見たのは、プラウン管の中だった。NHKのテレビ講座でへら釣りが取り上げられたのだ。その頃は僕はまだ、本格的な再開はしていなかつたが、子供の頃やっていた遊びである。

僕は釘付けになった。

釣り人は週替わりだったが、メイン講師は毎週一緒だった。初めて見るその「おじさん」

が、業界の大物中の大物であることや、週替わりの釣り人達はそのおじさんのかわいい子分が、歳の近そうな人はパワーバランスを配慮しての起用だろうことは、何も知らなかつた若い僕にも容易に想像出来た。

その後、僕はへら釣りを再開し、やがて等々力FCで釣りの師匠と呼べる方に出会う。その師匠に連れられて参加したゴールデン・クラブの例会。軽く便乗参加のつもりが、僕は目が点になった。

本で見た人ばかりなのだ。

NHKの番組が記憶から薄れかけていた僕は、今だから書ける失礼な話だが、会長の顔にピンと来なかつた。全てが繋がったのは、例会終了後の車の中だった。そして勝手に運命を感じ、急速にハマっていったのは言うまでもない。

僕が生まれた頃に全盛期を迎え、業界の基礎を築いた会長の勇姿は、僕が買い漁った古本の中に見つける事は出来なかつた。新し過ぎたのだ。

「現代へら鮎釣りは全てここから始まった」と多くの名手に言わしめる、伝説の「徳さんの実践釣り教室」は、へら鮎社編集部でバックナンバーを見るまで、すべて伝聞でしかなかつた。

しかし、還暦を迎えてもなお追い付けないその釣果に、全盛期の威光を想像することは可能だった。現役時代を知らない僕が書くのはどうかと思うが、会長は間違いなくスーパースターだった。いや、スーパースターはたくさんいる。その上だ。故人を格付けしても無意味だが、間違いなく「ウルトラスター」だったのだ。

孫と呼ぶには微妙だが、息子と呼ぶには若すぎる僕を、会長はとてかわいがってくれた。

へら鮎社とのコネクションも、里ちゃんとの

出合いも、元をたざせば会長のおかげである。日研の大会で神流湖へ行った時のスナッフが、チェストの引き出しを床にぶちまけた次男坊のおかげで、偶然いま手許にある。その中の僕は若く、会長もまだまだ元氣な姿だ。会長からの突然の電話。

富永氏と再会して聞いた会長の病状。

1月号（発売は昨年12月）の巻頭カラー。昨年中に出た多くのサインのおかげで、鈍感な僕にも会長に死期が近いことは気付いていた。が、すでにクラブを離れて長い時間が経ってしまった今、業界人でもない僕に連絡が来るとは考えられなかつたため、網を張る必要があつた。幸い、僕には業界人の友人がたくさんいる。中でも最大の情報網を持っているのは、いちメディアの長たる里ちゃんを置いて他にないだろう。万一の時は必ず知らせるよう依頼していた。きちんとお別れをしたかつたのだ。

お通夜は5日の晩だった。親でも殺さなければ突発の休みは許されない職場である。前もって分かつてはいても、2日前ではシフトの変更はかなり厳しい。残念ながら僕はその日は出勤。しかし、現在の僕は店長。強権発動である。

「オレの人生で親の次に、いや、親より大事かもしれない恩人の通夜。なんとと言われても休む。文句あるか？」

斎場ではもう1件の通夜がおこなわれていた。入るなり、ゴールデンの会員の方から、「佐藤家のご会葬でよろしいですか？」と声を掛けられた時、どうにも遊れない時の流れを感じた。もし僕がまだ在籍していたら、その台詞は僕が言っていたのかも知れないと思うと、堪えようのない寂しさに襲われてしまったのだ。

「自分で飛び出しておきながら、なにムシのいいことを言ってるんだ」というお叱りは



# 釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの鮎会
2. ぐりへの鮎会
3. ぐりへら鮎会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに  
転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～  
2回目以降同じものをご注文の場合  
は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

- 柴舟（東京都江戸川区）  
03-3613-2727  
佐伯釣具店（神奈川県川崎市）  
044-911-3722  
SANSUI川づり館（東京都渋谷区）  
03-3499-5025  
フィッシング中原（神奈川県川崎市）  
044-711-8266  
鮎仙人（神奈川県川崎市）  
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店  
または下記HPまでどうぞ

office27  
あとりえぐり

<http://www.office27.com>  
E-mail:info@office27.com

当然だが、戻れる場所を同時にふたつ（北斗へら鮎会も）失った寂しさは、とても書き表わすことは出来ない。しかし、新生ナリーズ発進とほぼ時を同じくして会長が逝ったこと、偶然にもこの連載が「70回」という節目に当たっていることには、きつと大きな意味があるのだと捉えなければならぬだろう。

そして、僕に出来ることを精一杯やっていることと思う。

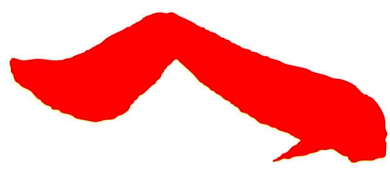
一般読者や現役時代を知るクラブの先輩方なら、呼んでも許されるであろう「徳さん」という愛称。若輩者の僕は、当然ながらそんな呼び方はして来なかった。でも、最後だけ無礼をお許しいただきたいと思う。

クラブファミリーとしてお送りすることは出来ませんでした。会長がその昔活躍されたのと同じ誌面で、こうしてお別れのご挨拶が出来ることを光栄に思います。長い間たいへんお疲れ様でした。安らかに眠り下さい。

さようなら、徳さん。

江成 公隆



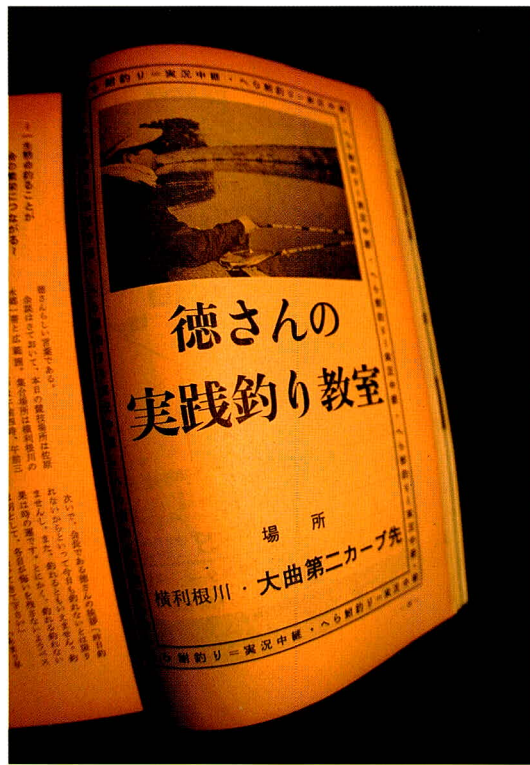


# ら鮒

九  
隻  
印

Monthly fishing magazine herabuna

みんな、実践釣り教室で、へら鮒釣りを覚えた。  
みんな、徳さんが大好きだった。



# 追悼 佐藤徳通氏

# 決戦、せまる。

春の乗っ込みは、大型を狙える好機。

野の大型狙いといえば、この時期、外せないのがグルテンエサだ。

巨べらがいかにも好みそうな、

さらっとした手触り、強いボソ、優れたバラケ性と待てるエサ持ち。

そんな特性を兼ね備えた、

マルキユーの2つのグルテンなら、

大物とのスリリングな駆け引きを、

存分に楽しめるはずだ。

マッシュの感覚が活きている、  
2つのグルテン。



ボソで、マッシュそのままのグルテンエサ。大型狙いにも数々の実績を残している。ブレンド性に優れ、他のグルテンエサを加えることで、さまざまな水深や釣況に合わせられる。マッシュが効く、野生のへら鮎に効果大。

●新べらグルテン 400g



待てて誘えるボソタッチのグルテンエサに、膨らむ早さをプラス。宙でも底でも、その膨らみの早さから、早い食いアタリが期待できる。膨らんだ繊維がしっかりとハリに残るので、流れのある川でも有効。

●グルテン四季 250g

昭和41年5月4日第3種郵便物認可  
第43巻第4号(毎月1回1日発行)  
平成20年4月1日発行

2008 4

追悼

佐藤徳通氏

定価 1000円

本体九五二円

(株)へら鮎社

丸 マルキユー株式会社

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909  
四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909

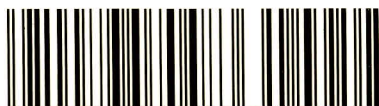
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら  
iモード・ホームページ  
<http://www.marukyu.com/i>

マルキユーホームページ内の「へら鮎天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。  
<http://www.marukyu.com/> マルキユーへら鮎メールマガジンも、お申込はこちらから。

釣れるヒント満載!!  
へら鮎天国

雑誌 07907-04



4910079070483  
00952